

切削加工コンテストの芸術賞に選ばれた一輪挿し



青銅の一輪挿し

実は3Dプリンター製

県産業技術
センター

コンテストで入賞

県産業技術研究開発センターの主任研究員らが作った青銅製の一輪挿しが、工作機械大手が主催する切削加工コンテストで芸術賞に選ばれた。県が27日、発表した。

一輪挿しは、山本貴文主任研究員と、デザイン事務所「A-PLUS」(高岡市)の相川繁隆代表が共同

で作った。

3Dプリンターを活用して、高岡銅器で広く使われる青銅を造形し、彫金や着色を施した。先端技術と伝統工芸技術を調和させた点が評価された。センターは「3Dプリンターの標準材料ではない青銅の造形技術も確立した」と話す。

コンテストは、DMG森

精機(名古屋市)が2004年から行う。今回は51点の応募があり、20点が金賞や芸術賞を受けた。12月13日に都内で表彰式を開く。

幼小教育の違い 共通点理解3割

県教委アンケート

県内の幼児教育施設と小
学校の教育の共通点や違い
を理解している教職員が30